



善正寺だより

掲示板法話

縁ある者同士 共感の心を耕そう

暑中お見舞い申し上げます。読者の皆様に支えられて今号で二百号を迎えました。長男の得度と坊守が教師資格を授与された機会に、ご挨拶を載せようというのが寺報発行の素朴な契機でした。「三百号を迎える頃、あなたは七十歳を越えてるけれど大丈夫？」と坊守に言われて「ドキリ」としました。「お互いに保証の限りでない者同士。自然体で一步一步いだけだよ」と心の中でつぶやいた次第です。

寺報の発行を始めてから十七年、地域や社会は随分変わりました。日本企業の終身雇用などというよき雇用慣行が崩れて、「寄らば大樹の陰」といわれた生活基盤が揺らぎ始めました。その結果、非正規雇用が増え、結婚できない若者が増えて、少子化が進んでいきます。そこで、家族が小規模化し、高齢者だけの世帯や独居世帯が増えました。それは地域共同体の弱体化をもたらし、それと共にお寺の存立基盤も揺らぎ始めたことを意味します。

大規模な葬儀や法事が減り、「家の宗教」としての仏教伝道の機会が減っていくのは確かです。しかし、意識せずと

も潜在的に救いを求めている人々は増えてはいるはず。介護の悩み、将来への不安など、「心の悩み」は多様であり、出口なき悩み苦しむ人たちにこそ、仏教の教えは開かれているのです。まさに「心と心でつながる宗教」への脱皮が待たれています。

「一生懸命育ててきたのに、子供が振り向いてくれない。夫に相談しようとしても『忙しい』と相手にされない」とこぼす奥さん。「自分はいなくてもいい人間なのではないだろうか?」「このまま年取っていくだけかと思うと、何のために生きてきたのか分からなくなる」など、一見平穏そうに見える人の心の中は様々です。共通点は「自分は一生懸命生きてきたのに...」という「評価されない」苦しみです。お釈迦様は「事実をありのままに見る」ことをお勧めになり、自他の区別のない、本当の共感こそ共に救われる世界であることを説かれました。「喜びを共に」「悲しみを共に」縁ある者同士が共感できる心を耕していきたいと思っています。



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

秋季永代経法要 (講師:加藤正人先生)

8月21日(土)午後1時半・夜7時半

22日(日)午後1時半 (お経開き)21日午前10時半

永代経とは亡き人をご縁に私が仏法に出会う機会です
皆さんお誘い合わせてお参り下さい

♪三重組コーラス♪

☆8/11(水)陽光苑お誕生会慰問40回目

☆8/28(土)夜7時半小杉練習、2010御堂演奏会楽譜

11/22(月)京都西本願寺御堂演奏会連続8回目参加予定

◇キッズサンガ

※8/7(土)午後4時 新しいお友達を誘ってどうぞ

※毎日夕方5時鐘撞きは誰でもOK 飴・ガム付。年中無休

予告※小杉町追弔会9月19日(日)午前・午後 光念寺様で

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評
開設2年で2万3千回アクセス達成!毎日40~50訪問に感謝!
HPからのメール、悩み相談など歓迎!拍手欄より一言メッセージを
どうぞ、私達の大きな励みになります。

住職と坊守の2冊目共著本「虫の眼鳥の眼仏の眼」(千円)

好評発売中。中西智海先生の推薦文も!

同時に一縁会テレホン法話の本も発売中。



6/27三重組お待ち受け法要、コーラス61名が燃えた!



「三重組がひとつになった!」音楽法要で厳かに盛大に!四日市文化会館



2010年7月「念仏」を59名で熱唱、これぞ三重組パワー

7/7名古屋別院音楽祭、三重組コーラス「念仏」を熱唱

坊守スケッチ 初ゼミを聞いた



今回で二百号を迎えた坊守スケッチ。何かカッコイイことを書こうと思いつきながらも、何も思い浮かばない。確か百号記念紙は、八年前の平成十四年。私は母の介護六年目で、毎月母を県外の病院へ診察に連れて行った。その待合室で配られた医師手作りの新聞をヒントにした文を書いた。今回は全く違った観点から、還暦を迎えた私の感慨を書いてみたいと思う。

去る七月九日早朝四時半、境内で「ジージー」と鳴くセミの声に、私は目覚めた。もしかしてこれは初ゼミの声？私以外の家族はまだ寝静まっている。起こして確認させるのは可哀想。仕方なく自分一人で鳴声を静かに聞いた。その間五分ほどだった。

この感動を独り占めするのは申し訳ない。パソコンを開けて、五時十分からのNHKの『ラジオ朝一番』という番組にメール投稿することを思いついた。NHKのHPから送信した。番組開始の直前の投稿で、全国から沢山のメールや葉書、FAXが寄せられているから、読まれる筈はないと諦めていた。しかし一番目の視聴者紹介に

「三重県の渡辺充子さんから、つい先ほど届いたメールです」と女性アナウンサーが紹介するではないか！NHKの対応の速さに先ず驚いた。その後垂坂山へ散歩に出かけた。そこでKさ

んから「さつきラジオ聞きましたよ」と声をかけられて嬉しかった。後日他の坊守さん、先生からも「聞いていましたよ」と手紙を戴いた。こうしてつながら感動の輪のありがたさ！

実はこの歳になるまで、セミの鳴声は聞いていても、これが初ゼミという確信を持って聞いたことがなかった。今朝の鳴声を聞いて、『夏の到来』を知らされた。「こんな小さな生き物でも一生懸命に生きているのだから、私も負けてはいられない、一緒に頑張ろうね」と初ゼミに語りかけた。

私が『初ゼミ』に何故関心を持つかといえば、私のマンドリンの恩師が『初ゼミ』という題名で作曲されて、以前から何度も演奏をしていた。しかし実際に鳴声を聞いたのは、今回が初めて。ここに至るまで、こういういきさつがあったにせよ、私が受け取る心の準備が出来て、今朝やっと気付かせてもらった喜びなのだ。

住職は「こういうのを『宿善開発』(しゆくぜんかいほつ)というのだよ」と教えてくれた。難しい仏教用語は分からないが、仏様のお慈悲に恵まれているにも拘わらず、日常生活の中で私が気付かないまま過ごしていることが、何と多いことだろうか？私に受け取る心の準備が出来た時、初めて「気付き」となってお慈悲が受け取ら

れる。その喜びや感動を共有できる人がいれば、もっと素晴らしいことだ。それにしてもNHKの送受信の対応の速さに驚く。お寺もご門徒さんとの交流を、このようにありたいと思う。

☆寄稿

四日市市川崎孝一
八月は 寺報節目の 二百号
寄稿許され 八年目へと

☆益荒にも 舞台で客の 視線来る
女子が主流の 三重組コーラス

☆梅雨最中 産めよ殖やせの青蛙
雨落桶に おたまうじゃうじゃ

四日市市 釈弘蓮
風を受け 日差しを受けて
風を受ける 私は何を発しようか

☆雨を受け 日差しを受けて
風を受ける 私は何を発しようか

♪三重組コーラス♪

☆陽光苑慰問
8月11日(水) 40回目

小杉練習今年の後半の予定
☆7月31日(土)夜7時半

☆8月28日(土)夜7時半
☆9月25日(土)夜7時半

☆10月30日(土)夜7時半
※2010御堂演奏会楽譜持参

※今年も11/22(月)京都西本願寺「御堂演奏会」8回目の参加予定

キッズサンガ・杉の子合唱団
◇8月7日午後4時より。お友達誘って来てね！夕方5時の鐘撞きは毎日。

カンパ有難う☆
柴田美津代様・他匿名様多数よりお

志・切手有難うございました。

☆ホットニュース☆

☆6月27日四日市文化会館第一ホールで三重組お持ち受け法要(音楽法要)が1500名の聴衆と共に、厳かに盛大に勤められた。三重組全寺院僧侶29名と三重組コーラス61名が、舞台で唱和。3回のリハーサルも入念に。前代未聞の画期的な試みに、僧侶もコーラスも「三重組がひとつになった！」と大きな感動と充実感、達成感に満たされた一日でした。

☆7月7日名古屋別院で、第6回東海仏教音楽の集い。三重組コーラス59名大型バスで参加。「念仏」を熱唱。会場からは「三重組はよく練習してある。まとまっている」と好評。お持ち受け法要から僅か10日足らずの参加、コーラスの皆様ご協力ありがとうございました。

☆編集子より☆

「善正寺だより」第二百号をお届けします。◇本紙の編集に先立って、「二百号」を詠み込んだ短歌を寄せてくださる方や、「今度は二百号ですね」と声をかけて下さる方々など、皆様の支えにより、二百号に到達することができました。心より感謝いたします。◇創刊の頃と比べると、社会の絆が弱くなってきたように感じる。だから、皆さんが様々な「思い」を寄せる場としての「法縁共同体」のような場が必要。◇先般の「お待ち受け大会」は僧侶と門徒が「音楽法要」という協働参画により大きな感動を共にする機会になった。今後とも法縁の絆を結ぶ寺報でありたいと願う。

とうとう200号を迎えました。特別なお祝行事はしません。一つの通過点として心に刻みたいと思います。十七年前、僧侶の教師資格を取得し、その挨拶文を書きつづり始めた「坊守スケチ」と手書きの手紙、無知と若気の至りが重なってここまで続けることができました。これもひとえに皆様の応援のおかげと厚く感謝しております。どんなに大変な時代も乗り越えることができたのは、毎月欠かさず発行しなければならぬという意志と責任が緩衝剤となりました。八年前から始めた三重組ゴロラス、二年前から始めた善正寺のホームページと毎日のブログ更新、坊守の仕事は際限なく広がり、年中無休、定年がありません。しかし私の思い出のアルバムには沢山の人々との出念いと絆が詰まっています。今後は皆様からお寄せ頂いた短歌、詩、俳句、写真等掲載して多彩な紙面作りを心掛けたいと思います。どうか意見、悩み等FAXやメールからでも遠慮なくお寄せ下さい。即返信をして皆様と心をつながるお寺になりたいと思います。善正寺だよりが300号を迎える頃は住職は70代突入、私は60代後半、体力気力がいつまで続くか不安ですが、次の代にしっかりと念仏の喜びがバトンタッチできるように、毎月心を込めて発行します。今後とも変わらぬご協力、ご支援よろしく願います。

平成二十二年八月 合掌 善正寺坊守 拝